

平成11年1月

図書館だより

やさしい情景の中で蔵書印を見る楽しみ

日本医史学会 会員 梶谷光弘
全国地方教育史学会

(松江教育事務所指導主事)

図書館の入り口に入ると、吹き抜けのロビーにゆっくり陽ざしが差し込んでいる。その日の天気によって、光と影の境界線がはっきり見えたり、薄く、ぼーっと見えたりして変化する。そして階段を上り、2階の郷土資料室の席に座ると、対岸の木の葉が水面で反射した光を浴び、うれしく小躍りしているように見える。

私は、図書館のこんな情景が好きだ。

その中で1冊の本を手にした時、新たな空想と発見が生まれる。

ある日、偶然手にした1冊の古書の巻末に、「らくがきまたがし御無用」と彫られた蔵書印が捺されていた。最初はあまり気にも止めず、書名などは記録しなかった。ところが2~3年ほど経ってみると、その蔵書印には2度と会っていないことに気がついた。所蔵者は、一体、なぜあの本にだけ「落書き」と「又貸し」を禁止したのだろうか?きっと、その時、何か特別の思いや理由があったのかもしれない。

それから、私は古書を手にするたびに蔵書印を探すようになり、これまで多くのも

のと出会った。

たとえば、江戸時代後期から松江藩校の儒官職を代々受け継いだ桃家では、「桃氏永宝」という印を捺して本を家宝とした。また、幕末に町人から儒官として登用された内村鱸香は、大小12種以上の蔵書印を使い分けた。さらに、わが国の和算史に名を残した松江藩士藤岡雄市は、10種以上の印の他に、なすびの絵を彫って蔵書印とした。その他、四書五経などから好きな言葉を抜き出して蔵書印とした人もいた。

このように、蔵書印は本の所蔵者を表すだけでなく、その人の生き方までも示していることがある。

私は、蔵書印を頼りに過去へ溯り、本を手にした人たちの思いにしばらく浸ってみる。そして、彼らと本の感想や考えを語り合うことによって、時代を超えて変わらない人間の知的好奇心を感じるのである。

しまねの図書館紹介 第3回

○現在、県内8つの市にはすべて図書館が設置されています。そのうち、松江、平田、出雲、大田、益田の5つは2千平方メートルを超える大型館です。いずれも利用しやすい雰囲気を持った図書館です。今回紹介するのは、昭和59年の新館オープン以来、常に県内一の貸出率を保ち、他の図書館の目標となっている出雲市立図書館です。

出雲市立図書館

出雲市は、面積約170km²、人口約87,000人、松江市に次ぐ県内第2の都市です。出雲平野が市域の半分を占め、穀倉地帯であると同時に、人や物を集める都市として現在も発展し続けています。その平野を東西に貫く幹線、国道9号沿いに出雲市立図書館があります。広さ約2,600m²、蔵書冊数約19万冊、ゆったりとして、居心地のいい空間です。

新館が開館して以後、今まで、全国レベル以上の貸出を続けてこられた理由を、他の図書館と比較して考えてみました。

1. 職員体制の整備、特に専任司書〔開館時4名、現在6名（嘱託員含む）〕を配置したこと。
2. 開館時から資料購入費を毎年一定額以上（出雲は2千万円）予算化していること。
3. 新聞、雑誌など図書以外の資料も整備していること。
4. 移動図書館、地域図書館（公民館）及び保育園、幼稚園への団体貸出を通じて全域サービスを実施していること。

1～4から言えることは、「市民のあらゆる要求に対して、誠意を持って対応できるだけの基盤整備がなされている。」ということです。祝日開館、司書の増員により、市民サービスの向上をさらに目指しています。

今後は利用者を待つ図書館から、情報を発信していく図書館、開かれた図書館になることが期待されます。それにはまず、あらゆる世代のどの地域の住民にも利用しやすいシステムづくりが重要課題です。



「予約」と「リクエスト」

図書館に本を借りに来た時、いつも借りたい本が書架になかったり、貸出中だったり、ということはありませんか？

ご希望の本が見当たらない場合は、職員に相談してみてください。希望の本が貸出中の場合、その本に「予約」をすることができます。

「予約」をしておくと、その本が返却されしだい、ご連絡いたします。

また、もしその本が、図書館に所蔵していない場合は、購入できる本については「リクエスト」という形で、購入希望も受け付けています。こちらも、本が用意できしだい、ご連絡します。

図書館職員研修会を開催します

演題：『出版流通と図書館』

講師：花井 満 氏（「本の学校」事務局長）

とき：2月3日（水） 13:00～15:00

ところ：県立図書館集会室

参加者：県内公共図書館職員、教育委員会職員、公民館職員、学校図書館職員等

申込み：県立図書館普及係あてに申し込んでください。

問合せ：☎0852-22-5730 Fax 0852-22-5728

講演会を開催します

演題：『小説を書くということ』

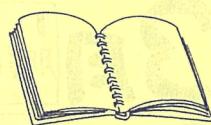
講師：古浦 義己 氏（山陰文芸協会副会長）

とき：2月9日（火） 13:00～15:00

ところ：県立図書館集会室

問合せ：県立図書館普及係 ☎0852-22-5730

参加自由、入場無料です。



講師紹介 昭和12年松江市生まれ。平成9年退職まで、県内で教員生活を送る。昨年出版された小説集「雨に咲く」が好評。現在、山陰文芸協会副会長。

市町村読書普及研修会を開催しました

去る12月1、2両日、県浜田合同庁舎及び松江県職員会館において、「子どもの本の選び方～子どもと本の橋渡しを考える～」と題して、上記研修会を開催しました。

兵庫県太子町立図書館長 小寺啓章氏を講師にお迎えし、午前は講演、午後は参加者と講師とのフリートーク形式による研修会を行いました。小寺氏は、図書館等において子どもの本を選ぶには、次の5点が重要であるとまとめられました。

- ・自分で選ぶ—自分の力を信じる。（古典を読み、生きる力につける。）
- ・古典に信頼の根をおく。
- ・蔵書全体のバランスを考える。（将来のバランスも考えながら。）
- ・まずバックボーン（核となる本）を持ち、同心円的に考える。
- ・子どもをよく観察し、よく知る。

また、子をもつ親に対しては、「自分の良い時間を子どもと共有しなさい。」とお話されました。

行事予定

2月

1 月曜休館日	2 火	3 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	4 木	5 金	6 土 故説読み会 14:00~16:00
7 日 月曜休館日	8 月曜休館日	9 文化講演会 13:00~15:00 成人読書会 15:00~17:00	10 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	11 建国 記念の日 休館日	12 出雲國 風土記を読み会 13:00~15:00
14	15 月曜休館日	16	17 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	18 「旗集」を よむ会 14:00~16:00	19
21	22 月曜休館日	23	24 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	25	26
28					

館内展示：島根の美術

3月

1 月曜休館日	2 火	3 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	4 木	5 金	6 土 故説読み会 (近世) 14:00~16:00
7 日 月曜休館日	8 月曜休館日	9 成人読書会 13:00~15:00	10 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	11 「旗集」を 読み会 14:00~16:00	12 出雲國 風土記を読み会 13:00~15:00
14	15 月曜休館日	16	17 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	18	19
21 休館日	22 月曜休館日	23	24 親子で えほんをよむ会 15:00~15:40	25	26
28	29 月曜休館日	30	31 月末休館日		

館内展示：'98年度愛賞作品展

*各種講座は講師の方の都合により変更する場合もあります。

利用案内

●休館日

毎週月曜日・国民の祝日
毎月末日(月末が日曜日にあたると
きはその前日)
年末年始 12月28日~1月4日
図書整理休館(年2回、それぞれ10日間)

●開館時間 9時~18時

ただし、こども室は火曜日~土曜日は13時~18時

(第2・第4土曜日・日曜日および小・中学校の春・夏・冬休み期間中は
午前9時から開きます。)

●貸出し

冊数…5冊以内
期間…15日